

吸入療法アカデミー更新講習会日程表

◆ 9月18日（土）17時～

上荷 裕広 先生（アカデミー三重エディケーター、すずらん調剤薬局）

『アドヒアランスのアセスメントと対応について 概論』

喘息や COPD においては、正しい吸入手技の確立と共にアドヒアランスを維持することが重要である。そこで治療に対するアドヒアランスのアセスメントとその対応について解説したい。概論とはなるが、吸入療法アカデミー認定の吸入指導薬剤師を取得されているみなさんに、患者指導のさらなるステップアップを目指したスキルを会得していただければ幸いである。

◆ 9月23日（木祝）19時～

石川 正武 先生（アカデミー岐阜エディケーター、いきいき健康薬局）

『With コロナの中で行う吸入指導について』

With コロナの時代に薬局でいかに安心、安全に吸入指導を行っていくかについて、タブレット端末を用いた映像による吸入指導方法を取り入れながら吸入指導を検討した内容についてご紹介いたします。

◆ 9月25日（土）17時～

金井 栄一 先生（アカデミー山形エディケーター、本町アイ薬局）

『顔の見える関係づくりから始まる吸入連携の実例』

患者さんの吸入指導の必要性を感じ吸入指導をした後や医師から吸入指導の依頼があり吸入指導を実施した後、医師へのフィードバックをするものそれっきりだったり、何を報告したら良いのか躊躇してしまうと言った声を聞くことがあります。実際にあった医師からの依頼例や薬剤師の素のままで連携をした事例をお伝えします。

◆ 10月2日（土）17時～

加藤 淳子 先生（アカデミー福島エディケーター、クオール薬局とやの店）

『アドヒアランス向上を目指した吸入薬指導加算算定の取り組み』

2020年度調剤報酬改定で薬局における吸入薬指導加算が算定できるようになった。これは吸入指導を継続することによるアドヒアランスの向上が、まさに薬局・薬剤師に求められる重要な役割だからである。当薬局では継続して吸入薬指導加算を算定しているが、お薬手帳への情報提供の記載等を例に試行錯誤しながら現在の運用に至っている取り組みについて紹介する。

◆ 10月9日（土）17時～

加藤 淳 先生（アカデミー山形エディケーター、おいのもり調剤薬局）

『認定吸入指導薬剤師のみなさまへ』

吸入療法アカデミーの講習会を受講し認定吸入指導薬剤師の資格を取得したみなさまに、ピットホールを学んだ意義とそれを日常業務にどのように生かしていくか、今後どのように活動していくべきかを事例を交えてお話しします。

◆ 10月16日（土）17時～

松木 恵 先生（アカデミー埼玉エディケーター、ライオン薬局春日部店）

『認知症を合併した COPD 患者の在宅医療への介入』

高齢化社会における認知症患者の増加は、在宅医療の現場でも、適切な医療を提供する上で問題となることがある。そのため、在宅患者に対する薬学的ケアのニーズは高く、特にコロナ禍では、質の高い COPD 治療を行うことが必要である。薬局薬剤師の吸入指導は、アドヒアランスや治療効果の向上において重要な役割を担っている。在宅医療の薬剤介入により、複数のピットホール減少に繋がった事例を報告する。

◆ 10月23日（土）17時～

前田 大典 先生（アカデミー広島エディケーター、ウォンツ薬局白島通り店）

『本当にあった怖い話～吸入手技編』

日々、吸入指導するにあたり、自分では予測できないような吸入法で吸入する人は存在します。吸入出来るかどうかの質問をすると必ず皆、吸入出来ると答えますが、出来ない患者様は多数存在します。私たち医療人の当たり前は必ずしも一般の方々には当たり前というわけではないということを、実例をもとに紹介していこうと思います。

◆ 10月30日（土）17時～

本石 寛行 先生（アカデミー埼玉エディケーター、草加市民病院）

『ラニナミビル吸入剤の吸入指導と感染対策について』

ラニナミビル吸入剤の吸入指導における操作ミス（ピットホール®）は小児では報告が散見されていますが、成人に関する調査報告は見受けられません。そこで以前、吸入療法アカデミー認定吸入指導薬剤師が在籍している保険薬局及び病院を対象に実施したアンケート調査をもとにラニナミビル吸入剤の吸入指導と感染対策に関するアンケート調査の結果から、ラニナミビル吸入剤の吸入指導におけるピットホール®とその対策、感染対策についてお話いたします。

◆ 11月6日（土）17時～

米花 亮 先生（アカデミー埼玉エディケーター、かばさん薬局）

『アカデミー8原則を活用した実践吸入指導』

吸入指導においては2つのアドヒアランス（薬剤に対するアドヒアランスとデバイスに対するアドヒアランス）の向上が求められる。限られた服薬指導の時間の中で簡潔にかつ継続性をもった吸入指導を行うことが重要である。当薬局でよく処方されるデバイスについてアカデミー8原則を活用した吸入指導の取り組みについて紹介する。